

日本臨床外科学会 国内外科研修報告

横浜市立大学附属市民総合医療センターでの国内外科研修を終えて

弘前大学消化器外科学講座

佐藤 健太郎

この度、日本臨床外科学会の国内外科研修制度により、横浜市立大学附属市民総合医療センター 消化器病センター外科で令和5年9月25日から10月2日の期間で施設研修をさせて頂きました、弘前大学消化器外科学講座の佐藤健太郎と申します。このような機会を与えていただきました日本臨床外科学会の万代恭嗣会長、国内外科研修委員会の高山忠利委員長をはじめとした委員の皆様、また、ご多忙の中温かく迎え入れて下さった横浜市立大学附属市民総合医療センターの國崎主税教授をはじめとするスタッフの先生方に、心から感謝申し上げます。

私が研修させて頂きました横浜市立大学附属市民総合医療センター 消化器病センター外科は、低侵襲手術において日本を代表する施設であり、今後ロボット支援下手術を学ぶにあたり、手術およびその教育環境を実際に見て経験したいと考え応募させて頂きました。

今回の研修では、国内屈指の施設で行われている手術を実際に現地で拝見することができ、非常に貴重な経験となりました。私は大腸外科をサブスペシャリティとして修練しており、研修期間中は主に下部消化管グループの渡邊 純先生の手術を見学させて頂きました。手術は回盲部切除術2例（ロボット支援下1例、腹腔鏡下1例）、ロボット支援下低位前方切除術3例と、短期間ではありましたが多くの手術を見学することができました。渡邊先生の手術は速さと正確さを高次元で兼ね備えた、これまで見たことがないレベルの手術であり、自分に真似できることが果たしてあるのだろうかとは最初は呆然としましたが、渡邊先生は手術支援ロボットの性能を最大限引き出すために、アームの干渉など、ロボット支援下手術特有の問題に関して様々な工夫と努力を重ねてクリアしてきたと教えて下さり、またロボット支援下手術に特有のスキルや鉗子操作に関して詳細に説明して頂きました。一見、天才が誰にも真似できない独創的な手術を行っているように見えた渡邊先生のロボット支援下手術は、実際には詳細な理論と弛まぬ努力によって作り上げられていると知ることができ、今後ロボット手術を学ぶにあたり、自分もしっかりと考えながら努力すれば少しでも渡邊先生に近づく可能性があるのではないかと、勇気をいただきました。また、渡邊先生の指導の下、私より若い先生方も術者として経験を重ねていることも知ることができました。後進の指導にも力を入れられていることが強く印象に残りました。

また、今回は大腸外科を中心として見学をさせて頂きましたが、大腸外科の手術がない日はロボット支援下食道亜全摘や胃切除も、上部消化管グループの先生方の計らいで見学させて頂きました。上部消化管グループの先生方は気さくな方が多く、美味しいラーメン屋や中華料理屋も教えていただきました。急な見学にも関わらず、丁寧にご対応いただき、大変有難かったです。

私自身、サブスペシャリティが固まりつつあり、修練を重ねていくスタートラインに立ったタイミングでトップクラスの技術を学ぶことができ、非常に良い刺激になりました。到底真似できなさそうに見える天才的な手術も、実は工夫と努力の積み重ねで作られていることを知ったことが、今回の研修の最大の収穫であり、将来へのモチベーションに繋がりました。

最後になりますが、本研修に私をご推薦いただきました当講座の袴田健一教授、お忙しい中、不在期間中の業務を負担していただくことになるにも関わらず、私を快く研修に送り出してくださった弘前大学消化器外科学講座の皆様、この場を借りて深く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

